

第4節 実施の効果とその評価

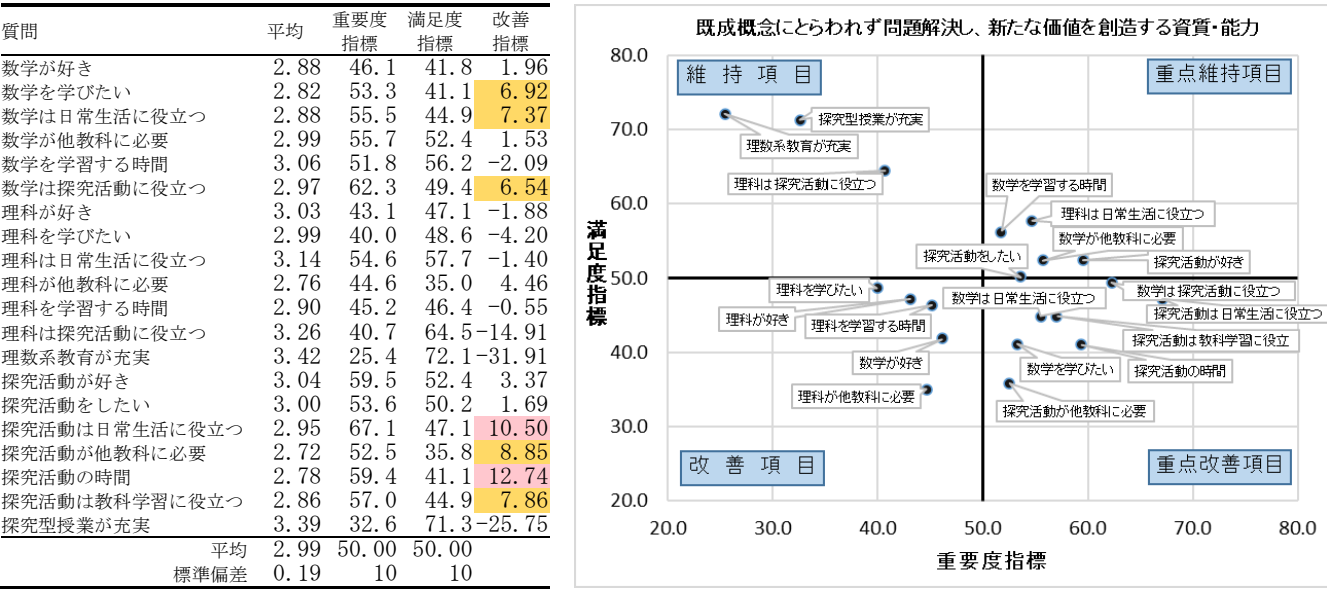
1. 生徒・教職員・保護者への効果

(1) 生徒

令和5年2月にSSコース3年58人,2年47人,1年55人,GSコース2年157人,1年176人(有効回答)を対象に,紙媒体アンケート記入後,Web 転記(Google form)する選択肢回答法(Closed-ended question)・単数回答法(SA; Single Answer)で間隔尺度(強制選択尺度[4件法 4:肯定,3:やや肯定,2:やや否定,1否定])の回答をポートフォリオ(CSポートフォリオ)分析する。研究開発の仮説を総合評価に設定し,個別評価要素の重要度指標と満足度指標を得て,重点的改善要素を抽出する。(4関係資料 第6節 研究開発の分析の基礎資料・データ参照)

I 中高一貫教育校として,理数教育に関する教育課程の開発及び教科の枠を越え,探究の「問い」を創る授業の実践

[仮説 I] 既成概念にとらわれることなく社会の問題を発見・解決し,新たな価値を創造する資質・能力を育てることができる。



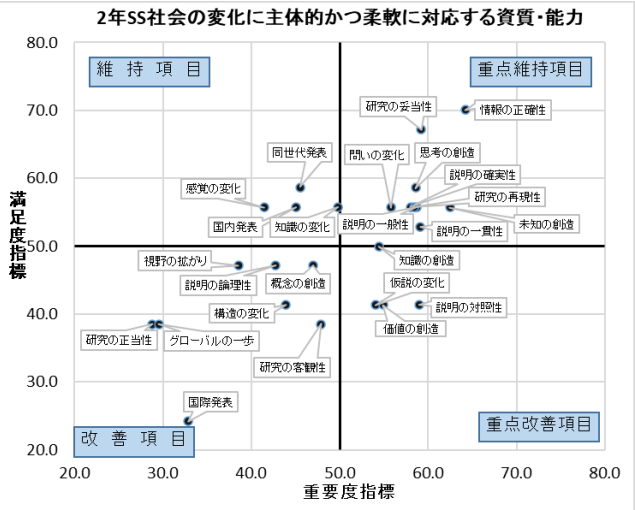
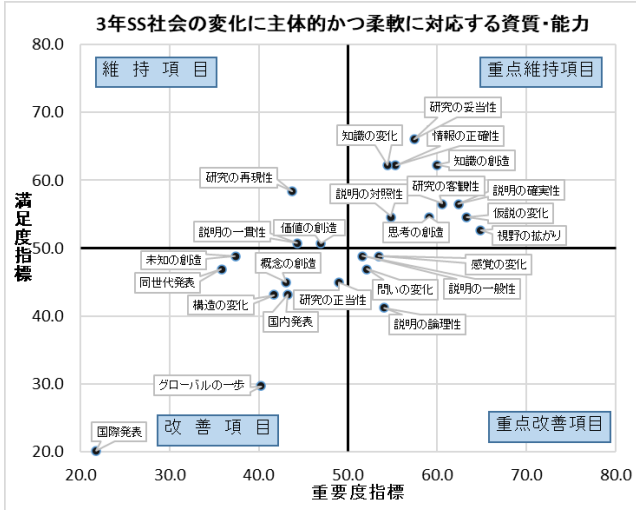
満足度指標,重要度指標の二軸から重点維持項目,維持項目,重点改善項目,改善項目の要素を分類した結果,数学が他教科に必要及び数学の学習時間,理科が日常生活に役立つ,探究活動への意欲が重点維持項目として,理科が探究活動に役立つ,探究型授業及び理数系教育の充実が維持項目として,「既成概念にとらわれることなく社会の問題を発見・解決し,新たな価値を創造する資質・能力」の育成に寄与していることが示された。一方,重点改善項目として,数学の学習意欲や日常生活及び探究活動での有用性,探究活動の時間確保や日常生活及び他教科への有用性の項目が示されたことから,数学の教科学習において,日常生活や探究活動を想定した問題解決の場面や設問の機会を充実させる教育方法,指導法,教材教具の開発,探究の「問い」を生徒が創る場面の充実とその「問い」を評価する方法の確立が必要であると考え。また,探究活動の時間を確保したうえで,探究活動と教科教育を往還させる取組として,3人1組教科の枠を越える授業研究や,探究活動で扱う知識・技能,思考・判断・表現に関する学習内容と教科教育の連携の充実が必要と考え。

II 中高一貫教育校として,教科との関わりを重視した探究活動プログラムの実践

[仮説 II] 社会の変化に主体的かつ柔軟に対応する資質・能力を育成することができる

質問	3年SSコース n=58(N=59)				2年SSコース n=47(N=47)				1年SSコース n=55(N=55)				2年GSコース n=157(N=162)			
	平均	重要度指標	満足度指標	改善指標	平均	重要度指標	満足度指標	改善指標	平均	重要度指標	満足度指標	改善指標	平均	重要度指標	満足度指標	改善指標
説明の一般性	3.12	51.6	48.8	1.75	3.02	58.7	55.7	1.36	2.73	55.7	55.0	0.33	2.34	45.7	53.3	-4.98
説明の確実性	2.91	62.3	56.5	2.66	2.73	58.0	55.7	1.03	2.88	50.1	70.6-10.24	2.68	59.1	67.2	-3.72	
説明の一貫性	3.05	44.3	50.8	-3.36	2.82	59.1	52.9	2.92	2.85	43.2	66.7-13.42	2.57	68.7	61.3	3.38	
説明の対照性	3.03	54.8	54.6	0.08	2.80	59.0	41.4	12.26	2.81	53.5	60.9	-3.42	2.36	68.7	50.3	9.17
説明の論理性	3.02	54.0	41.2	7.47	2.67	42.7	47.1	-2.05	2.38	49.0	31.6	8.61	2.06	43.4	37.4	2.76
情報の正確性	2.90	55.3	62.3	-3.21	2.62	64.2	70.1	-2.65	2.87	49.1	62.8	-7.01	2.97	31.7	75.2	-28.04
研究の妥当性	3.24	57.4	66.1	-4.02	2.96	59.2	67.2	-3.65	2.69	42.5	53.0	-6.02	2.30	52.9	45.8	4.49
研究の再現性	3.26	43.7	58.4	-9.58	2.87	58.4	55.7	1.22	2.65	55.3	49.1	3.25	2.28	52.0	45.3	3.85
研究の正当性	3.12	49.0	45.0	1.89	2.76	28.8	38.5	-4.46	2.52	54.0	49.1	2.60	2.16	47.8	41.9	2.77
研究の客観性	2.90	60.5	56.5	1.82	2.49	47.9	38.5	4.47	2.54	33.9	45.2	-5.31	2.26	48.4	43.4	2.38
視野の広がり	3.07	64.8	52.7	5.82	2.60	38.6	47.1	-4.06	2.69	47.0	56.9	-5.78	2.49	48.3	57.3	-4.80
グローバルの一步	3.07	40.2	29.6	4.86	2.60	29.5	38.5	-4.11	2.33	39.8	33.5	2.83	1.99	45.6	37.9	3.60
同世代発表	2.66	35.8	46.9	-5.30	2.51	45.5	58.6	-7.83	2.48	20.6	45.2	-11.86	2.14	53.8	44.4	5.93
国内発表	2.93	43.2	43.1	0.07	2.78	45.1	55.7	-7.19	2.42	40.2	35.5	2.14	2.00	43.0	37.4	2.54
国際発表	2.88	21.8	20.0	0.78	2.76	32.9	24.2	3.93	2.19	40.6	29.6	5.06	1.67	36.7	28.4	3.73
感覚の変化	2.50	53.5	48.8	2.57	2.36	41.5	55.7	-9.00	2.60	67.9	49.1	9.50	2.54	53.0	59.3	-2.95
知識の変化	2.97	54.4	62.3	-3.66	2.78	49.8	55.7	-2.97	2.60	55.6	49.1	3.37	2.32	50.7	50.3	0.19
仮説の変化	3.21	63.2	54.6	4.02	2.78	54.1	41.4	7.44	2.63	50.0	53.0	-1.51	2.45	57.4	53.8	1.63
問いの変化	3.12	52.1	46.9	3.29	2.60	55.8	55.7	0.02	2.62	50.7	51.1	-0.20	2.49	61.8	55.3	2.98
構造の変化	2.98	41.7	43.1	-0.64	2.76	43.9	41.4	1.13	2.50	56.2	49.1	3.67	2.25	36.6	43.9	-3.34
未知の創造	2.95	37.4	48.8	-5.61	2.56	62.5	55.7	3.09	2.69	63.7	55.0	4.06	2.51	35.9	57.8	-13.21
知識の創造	3.02	59.9	62.3	-1.06	2.76	54.4	50.0	2.20	2.71	54.7	53.0	0.76	2.47	51.2	54.8	-1.68
思考の創造	3.22	59.1	54.6	2.04	2.71	58.6	58.6	-0.01	2.65	62.8	55.0	3.63	2.30	55.2	46.8	5.16
価値の創造	3.07	46.9	50.8	-2.08	2.84	54.9	41.4	8.22	2.50	53.2	41.3	6.74	2.39	65.8	48.8	8.68
概念の創造	2.98	43.1	45.0	-0.88	2.60	47.0	47.1	-0.06	2.62	60.5	49.1	5.79	2.40	36.7	52.8	-8.60
平均	2.98	50.00	50.00		2.64	50.00	50.00		2.61	50.00	50.00		2.34	50.00	50.00	
標準偏差	3.00	10	10		2.69	10	10		0.16	10	10		0.25	10	10	

3年SS課題研究,2年SS課題研究,1年SSプレ課題研究,2年GS課題研究の各取組を通して、「社会の変化に主体的かつ柔軟に対応する資質・能力」に「未知なるものに挑むUTO-LOGIC⁽¹⁾」の要素がどの程度、寄与するかを満足度指標、重要度指標の二軸から重点維持項目,維持項目,重点改善項目,改善項目の要素を分類した結果,学年の取組ごとに成果と課題を顕在化することができた。

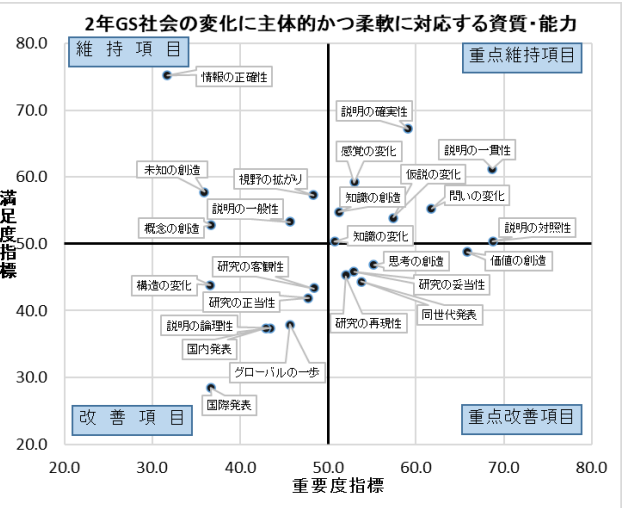
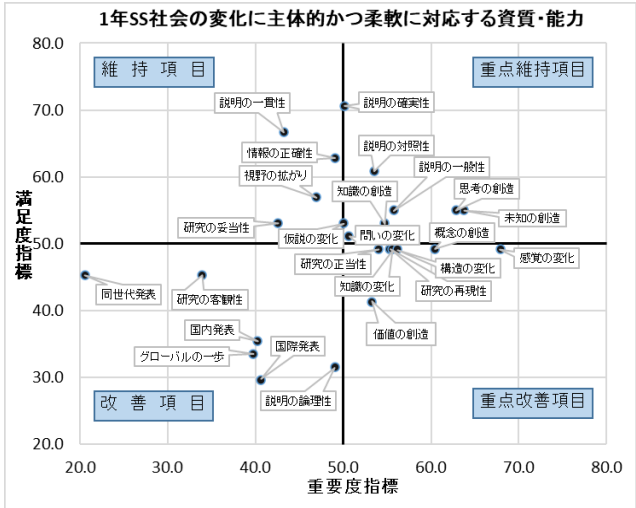


【3年SS課題研究の実施の効果とその評価に関する考察】

重点維持項目または維持項目として、研究の妥当性・客観性・再現性、情報の正確性、説明の対照性・確実性・一貫性の項目が示され、SS課題研究を通して確立した科学的研究手法で再現性ある実験、データ収集ができたこと、課題研究論文の作成を通して一貫性ある説明、客観的な説明を意識したことが有効であったと考える。一方、重点改善項目として、説明の一般性・論理性、感覚の変化、問いの変化の項目が示され、課題研究論文作成を通してアカデミックライティングの手法や科学的論文形式IMRADの体系的理解を促す取組、課題研究で得られた結果から次の探究課題を見出す取組を充実させる必要があると考える。また、改善項目として、国際発表、国内発表、同世代発表、グローバルの一步の項目が示されたのは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で様々な取組がオンラインになった影響と考える。

【2年SS課題研究の実施の効果とその評価に関する考察】

重点維持項目または維持項目として、研究の妥当性・再現性、情報の正確性、説明の一般性・確実性・一貫性・再現性、同世代発表・国内発表の項目が示され、SS課題研究を通して研究計画から構想発表、中間発表を経て、指導教員または同世代との研究に関する議論や試行錯誤しながら科学的研究手法を確立させたことが有効であったと考える。一方、重点改善項目として、説明の対照性、仮説の変化、価値の創造の項目が示され、対照実験として統制群と実験群を設定するための研究計画の立案や得られた研究結果から仮説を再設定するフレームワーク、研究の価値を見出すためのシンキングツールの活用が必要と考える。



【1年SS課題研究の実施の効果とその評価に関する考察】

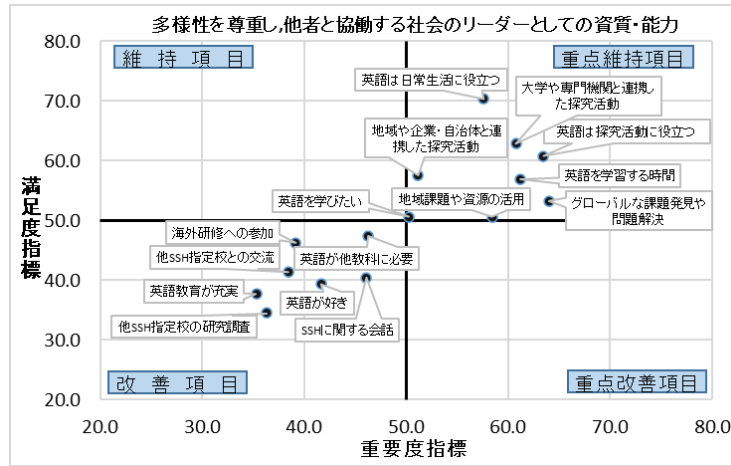
重点維持項目または維持項目として、未知の創造・思考の創造・知識の創造、説明の一般性・確実性・対照性・一貫性の項目が示され、未来体験学習(先端企業訪問・関東研修)や出前講義等、様々な先端科学に触れる機会やロジックリサーチ及びプレ課題研究を通して科学的論文形式IMRADの定着を図る取組が有効であったと考える。一方、重点改善項目または改善項目として、研究の再現性・客観性・正当性、説明の論理性の項目が示され、2年次以降の課題研究を通して自身の興味・関心を科学的に探究する手法を確立させる取組が重要であることが改めて示されたと考える。また、国際発表・国内発表・同世代発表・グローバルの一步の項目が改善項目であることから、プレ課題研究を通して研究発表の意欲が高まっていることを示す結果であると考えられる。

【2年GS課題研究の実施の効果とその評価に関する考察】

重点維持項目または維持項目として、感覚の変化・知識の変化・問いの変化・仮説の変化、知識の創造・未知の創造・概念の創造・視野の拡がりの項目が示され、研究内容から興味・関心に留まらず、知識や概念を変えていくことができていると考える。一方、重点改善項目または改善項目として、同世代発表・国内発表・国際発表の項目が示され、研究発表の機会を充実させる必要性が、研究の再現性・正当性の項目から学術的手法を定着させる必要性があると考えられる。

Ⅲ中高一貫教育校として、社会と共創する探究を進め、地域からグローバルに展開するプログラムの実践
〔仮説Ⅲ〕多様性を尊重し、他者と協働する社会のリーダーとしての資質・能力を育てることができる。

質問	平均	重要度 指標	満足度 指標	改善 指標
英語が好き	3.36	41.6	39.3	1.03
英語を学びたい	2.66	50.2	50.6	-0.16
英語は日常生活に役立つ	2.92	57.6	70.4	-5.94
英語が他教科に必要	3.42	46.3	47.4	-0.49
英語を学習する時間	2.86	61.2	57.0	1.91
英語は探究活動に役立つ	2.99	63.4	60.7	1.22
英語教育が充実	3.10	35.3	37.7	-1.10
地域課題や資源の活用	2.52	58.4	50.6	3.85
グローバルな課題発見や問題解決	2.79	64.0	53.2	5.09
大学や専門機関と連携した探究活動	2.90	60.8	62.9	-0.95
地域や企業・自治体と連携した探究活動	3.14	51.2	57.5	-3.05
海外研修への参加	3.01	39.1	46.3	-3.34
他 SSH 指定校の研究調査	2.92	36.3	34.5	0.80
他 SSH 指定校との交流	2.40	38.5	41.5	-1.37
SSH に関する会話	2.59	46.1	40.4	2.64
平均	2.52	50.00	50.00	
標準偏差	2.85	10	10	



「多様性を尊重し、他者と協働する社会のリーダーとしての資質・能力」の育成に寄与する項目を、満足度指標、重要度指標の二軸から重点維持項目、維持項目、重点改善項目、改善項目に分類した結果、大学や専門機関、地域や企業・自治体と連携した探究活動、英語の探究活動及び日常生活での有用性、グローバルな課題発見や問題解決・地域課題や資源の活用の項目が重点維持項目とに示された。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から制限があったものの、対面とオンラインの双方を組み合わせ、学校外との連携の機会の充実を図ったことが有効であったと考える。また、研究内容の Abstract 作成や英語での研究発表の機会の設定も有効であったと考える。一方、改善項目として、他 SSH 指定校との交流や SSH に関する会話が挙げられたことから、学校単独で SSH 事業を展開するだけでなく、県内 SSH 指定校をはじめとする広域での交流・連携の機会の設定、校内で異学年間の研究に関する交流の機会の設定を図る必要があると考える。

(2) 教職員

令和 5 年 2 月に指導教諭、教諭、講師（非常勤を除く）、実習教師、計 55 人（有効回答 47 人）を対象に、Web フォーム（Google form）で無記名回答を実施する。量的調査として「①生徒の研究発表の指導を経て得た経験内容の人数」、質的調査として「②自身の授業における探究型授業、教科横断型授業への意識」、「③自身の探究指導における代表事例・キャリア教育と探究指導の関係、教科で扱う探究に必要なコンテンツ」を設問とし、回答者のカテゴリ設定として、「SS 課題研究担当教員または GS 課題研究担当教員」、「本講在籍年数 5 区分」で得た回答を扱う。

また、SSH 意識調査アンケート質問項目（JST 実施）を選択肢回答法（Closed-ended question）・単数回答法（SA; Single Answer）で間隔尺度（強制選択尺度[4 件法 4：肯定, 3: やや肯定, 2: やや否定, 1 否定]）で実施し、回答をポートフォリオ（CS ポートフォリオ）分析する。研究開発の仮説「多様性を尊重し、他者と協働する社会のリーダーとしての資質・能力」を総合評価に設定し、個別評価要素の重要度指標と満足度指標を得て、重点的改善要素を抽出する。

【量的調査「①生徒の研究発表の指導を経て得た経験内容の人数」】

質問	SS 課題研究担当（数学・理科教員）n=20					GS 課題研究担当（数学・理科除く教員）n=27				
	1年未満	2~3年	4~5年	6~7年	8年以上	1年未満	2~3年	4~5年	6~7年	8年以上
①生徒の研究発表の指導を通して得た経験内容	3人	4人	8人	1人	4人	3人	5人	3人	9人	7人
ロジックスーパープレゼンテーション代表選出経験	0	2	4	0	3	0	1	1	4	6
科学系コンテストまたは研究発表会に出展した経験	1	1	3	0	2	0	0	1	1	1
学会に出展した経験	0	1	2	0	2	0	0	0	0	1
国際研究発表に出展した経験	0	0	2	0	2	0	0	0	0	1
研究発表で表彰を経験	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1

量的調査「①生徒の研究発表の指導を経て得た経験数」について、SS 課題研究担当教員は、本校勤務 2 年目以降ロジックスーパープレゼンテーションにおける代表生徒に選出された研究への関わりや、外部で開催される科学系コンテストや研究発表会へ出展する研究への関わりが見られるようになり、勤務 4 年以降、学会や国際研究発表に参加する研究へ関わる傾向が確認できた。SS 課題研究で学会や各種発表会への参加を目標とする生徒の指導や支援をすることができるよう本校に勤務する数学理科の教員が変容する体制を構築できていると考える。GS 課題研究担当教員は、ロジックスーパープレゼンテーション代表発表選出が年間 2 テーマであるため、代表選出経験をもつ教員が限定されるが、SS 課題研究担当教員と同様、本校勤務 2 年目以降ロジックスーパープレゼンテーションにおける代表生徒に選出された研究への関わりや、国際研究発表（台湾研修）に参加する研究へ関わる傾向が確認できた。

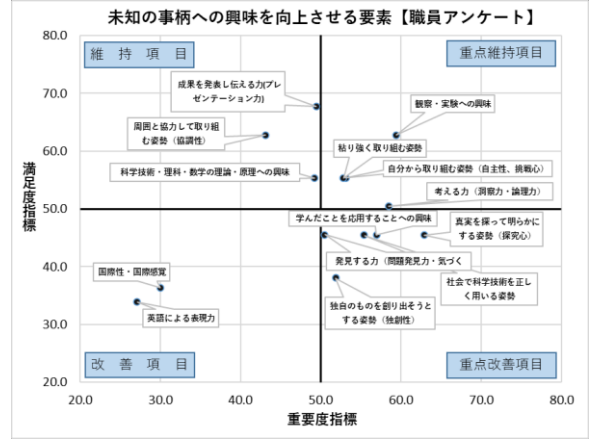
【質的調査「②自身の授業における探究型授業、教科横断型授業への意識」】

質問	SS 課題研究担当（数学・理科教員）n=20				GS 課題研究担当（数学・理科除く教員）n=27			
	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない
②授業における探究型授業、教科横断型授業への意識	おおいに	だいたい	すこし	まったく	おおいに	だいたい	すこし	まったく
①教科・科目を越えた教員の連携を重視しましたか。	10.0	45.0	40.0	5.0	3.7	40.7	51.9	3.7
②探究に必要な資質・能力を向上させる取組を授業に入れることを重視しましたか。	20.0	55.0	20.0	5.0	11.1	59.3	29.6	0.0
③探究的な学びになる授業の展開を重視しましたか。	20.0	60.0	15.0	5.0	14.8	63.0	22.2	0.0
④「問い」を創る授業の展開を重視しましたか。	15.0	55.0	25.0	5.0	22.2	48.1	29.6	0.0
⑤生徒が授業中に探究の「問い」を創る機会を重視しましたか。	10.0	55.0	30.0	5.0	14.8	44.4	40.7	0.0

質的調査「②自身の授業における探究型授業、教科横断型授業への意識」について、全体傾向として、探究に必要な資質・能力を向上させる取組を授業に入れる意識や探究的な学びになる授業展開の意識、「問い」を創る授業の展開や生徒が「問い」を創る機会の設定が 7 割程度であった。教科横断型の教員連携は 5 割前後であることから、3 人 1 組教科の枠を越える授業研究⁽³⁶⁾を通じた学際的視点の教材開発の充実や、教員が提示する探究の「問い」や生徒が創った探究の「問い」を教科の枠を越えて集約するデータベースの構築により、探究の「問い」を創る授業の充実を図ることができると考える。

【ポートフォリオ分析：未知なるものに挑むUTO-LOGICを支えるコンピテンシー「未知の事柄への興味」との関係要素】

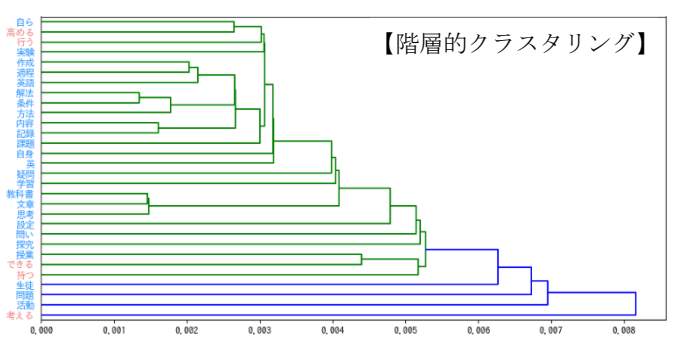
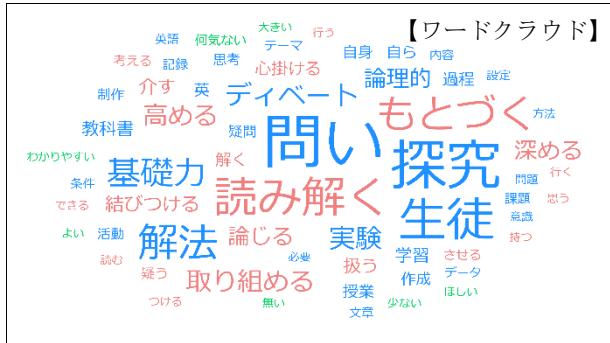
質問	平均	重要度指標	満足度指標	改善指標
科学技術・理科・数学の理論・原理への興味	3.13	49.2	55.4	-3.24
観察・実験への興味	3.26	59.4	62.8	-1.54
学んだことを応用することへの興味	3.11	56.9	45.5	7.19
社会で科学技術を正しく用いる姿勢	3.00	55.4	45.5	6.65
自分から取り組む姿勢（自主性・挑戦心）	3.28	53.1	55.4	-1.04
周囲と協力して取り組む姿勢（協調性）	3.35	43.1	62.8	-11.88
粘り強く取り組む姿勢	3.17	52.8	55.4	-1.16
独自のものを創り出そうとする姿勢（独創性）	2.93	51.8	38.1	7.23
発見する力（問題発見力・気づき力）	3.15	50.5	45.5	2.59
真実を探って明らかにする姿勢（探究心）	3.13	62.9	45.5	9.78
考える力（洞察力・論理力）	3.15	58.4	50.0	3.96
成果を発表し伝える力（プレゼンテーション力）	3.57	49.4	67.7	-9.25
英語による表現力	2.72	27.1	33.9	-3.08
国際性・国際感覚	2.74	30.0	36.3	-2.88
平均	3.12	50.00	50.00	
標準偏差	0.22	10	10	



未知なるものに挑むUTO-LOGICを支えるコンピテンシー「未知の事柄への興味（好奇心）」を向上させる要素について、満足度指標、重要度指標の二軸から重点維持項目、維持項目、重点改善項目、改善項目の要素を分類した結果、重点維持項目及び維持項目として、「観察・実験、科学技術・理科・数学の理論・原理への興味」や「粘り強く取り組む姿勢、協調性、自主性、挑戦心」、「プレゼンテーション力」が示された。一方、重点改善項目として、「課題発見力」や「リテラシー」、「学んだことの応用、探究心、独創性」が示され、改善項目には「国際性、国際感覚、英語による表現力」が示された。

先端科学と触れる機会やロジックプログラムやSS 課題研究、GS 課題研究で探究する機会を継続して充実させるとともに、課題発見や学んだことを応用するために、探究活動の時間だけでなく、授業においても生徒が探究の「問い」を創る機会の充実を図り、生徒が創った探究の「問い」を「主体的に学習に取り組む態度」として評価するルーブリックを開発することが有効と考える。また、情報リテラシーや研究倫理を体系的に学ぶ機会の設定も必要と考える。

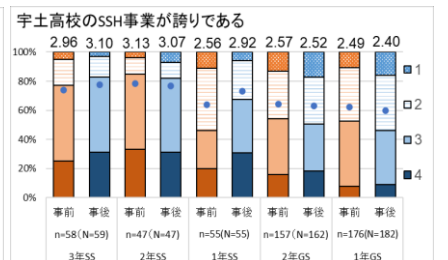
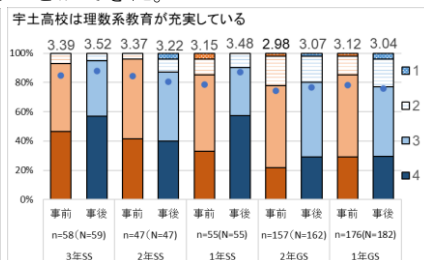
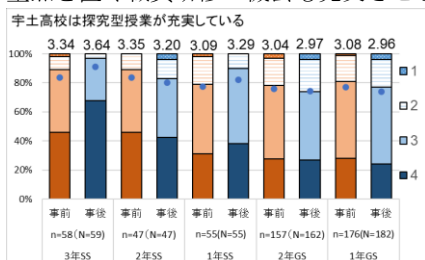
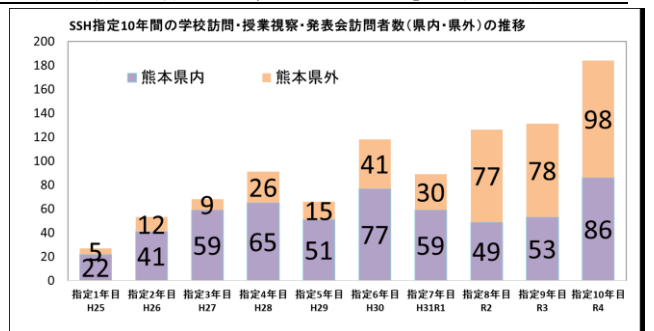
また、自由記述「自身の教科の指導内容について、探究に必要な資質・能力を高めるために、どのような内容を意識的に扱っているか紹介してください」の47回答を、文中に含まれる単語の重要度を評価する手法TF-IDF (Term Frequency - Inverse Document Frequency) により、特徴づける重要な単語を抽出するために、ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析を行った。教科の指導において、「問い」や「探究」、「読解」が高いスコア（重要度）を示すワードクラウドが得られたが、階層的クラスタリングでは「授業」、「探究」、「問い」、「活動」のクラスター間の単語出現傾向の類似度が高いことから、授業と探究の往還、探究の視点を授業に組み入れるための手法や実践例を一層、共有することが有効であると考える。



2. 学校経営への効果

(1) 中高一貫教育校として、理数教育に関する教育課程の開発及び教科の枠を越え、探究の「問い」を創る授業の実践

理科・数学の職員を中心にSSH指定以降、様々な教育実践に取り組み、探究の「問い」を創る授業⁽⁶⁾を推進することによって、生徒の学びを中心に据えた、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改革を進めることができています。生徒アンケートでも「宇土高校は理数教育及び探究型授業が充実している」と8割超の生徒から肯定的回答が得られ、授業のねらいや実践が生徒に伝わっている様子をうかがうことができた。学校訪問・授業見学で来校する教育関係者がSSH指定以降増加し、授業改革を活性化させる一助となった。3人1組教科の枠を越える授業研究⁽³⁶⁾等、授業研究に重点を置く職員研修の機会も充実させることができた。



(2) 中高一貫教育校として、教科との関わりを重視した探究活動プログラムの実践

SS コースは「SSH 事業を誇りである」と 8 割程度の肯定的回答が得られた。SS 課題研究に取り組む SS コースの生徒 50% 以上が各種学会等での研究発表を経験することができていることや科学技術系コンテスト多数受賞する研究成果を挙げていることから、近隣中学生が進路選択するうえでの検討材料となっている。

(3) 中高一貫教育校として、社会と共創する探究を進め、地域からグローバルに展開するプログラムの実践

合格率 1.2% で世界最難関大学と称されるミネルバ大学に進学した生徒（公益財団法人孫正義育英財団 3 期生等、各種奨学金授与）や、University of California, San Diego に進学した生徒（公益財団法人柳井正財団海外奨学金合格型第 6 期生）、台湾・静宜大学進学生徒など、卒業後、海外大学進学希望生徒を支援する環境を整えることができている。また、留学生及び海外研修参加生徒増加も挙げることができる。H26 年 9 月から 1 年はフィリピン共和国から 1 人、H27 年 8 月から 1 年間、毎年、中華人民共和国から 1 人留学生を受け入れた（計 5 人）。

3. 卒業生の追跡調査

令和 4 年 12 月に SSH 主対象である本校中進 SS コース・高進 SS コースを卒業した生徒（④関係資料 第 6 節研究開発の分析の基礎資料・データ参照）、計 403 人に郵送で依頼文を送付し、入力フォーム（Google Form）で回答を依頼する。令和 3 年 4 月 28 日付事務連絡「スーパーサイエンスハイスクール事業における生徒の卒業後の状況把握にかかる契約書の改訂について」で示された卒業後 5 年経過した卒業生（平成 29 年度卒（SSH3 期生）51 人のうち、26 人から回答を得た（回答率 51%）。質問内容⑧「業績」について、顕著な成果を以下に示す。

宇土高校在学中から学会発表や国際研究発表を経験している本校卒業生は、大学進学後、研究への目的意識が高い。

[1 期生] 国際先端科学技術学生会議（インドネシア）発表、東京大学工学部推薦入試進学触媒学会ポスター部門最優秀賞
[1 期生] 国際研究発表 The 18th international conference on precision engineering

[2 期生] アジアサイエンスキャンプ日本代表派遣、国際統合睡眠医科学研究機構研修、同研究室卓越大学院プログラム進学、eNeuro 論文掲載、Intentional Student Presentations Of Medical & Life Sciences Outstanding Speaker Award”

[2 期生] SLEEP SCIENCE CHALLENGE にて発表、The 8th Asian Particle Technology Symposium (APT 2021) ポスター発表賞受賞、大阪大学全学共通教育成績優秀賞

[3 期生] 全国総合文化祭最優秀賞、熊本大学医学部推薦入試進学、JSNP Excellent Presentation Award for CINP

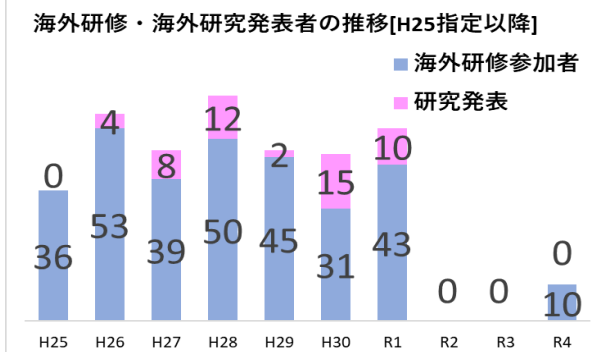
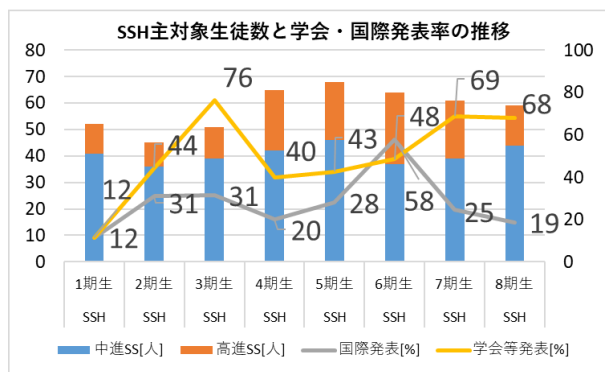
[3 期生] 軽金属学会 2022 年春季講演大会優秀ポスター賞
金属学会 2022 年秋季講演大会優秀ポスター賞

[4 期生] ISEF 表彰、日本物理学会最優秀賞、ミネルバ大学進学、公益財団法人孫正義育英財団 3 期生

【卒業生の追跡調査の質問内容】

質問内容

- ① 「氏名」を記入してください
- ② 卒業年を選択してください 選択肢 ①平成 27 年度卒（SSH 1 期生）～⑥令和 4 年度卒（SSH 7 期生）
- ③ 「性別」を選択してください 選択肢 ①男性（XY） ②女性（XX）
- ④ 「現在の学歴」を正式名称で記入してください（例：大学院在籍なら〇〇大学〇学部〇学科卒、大学等在籍なら宇土高校卒）
- ⑤ 「現在の所属」を正式名称で記入してください（例：大学院または大学在籍なら〇〇大学〇学部〇学科、就職先の正式名称）
- ⑥ 「現在の職位」を正式名称で記入してください（例：大学院または大学等在籍なら「学生」、就職なら就職先の役職名）
- ⑦ 「現在の職務内容」を記入してください（例：大学院または大学等在籍なら研究内容や専攻内容、就職なら主な職務内容）
- ⑧ 「高校卒業後の業績」を記入してください（表彰や取得資格、論文掲載や獲得研究資金等）
- ⑨ 「連絡先（メールアドレス）」を記入してください（必要に応じてご連絡いたします）
- ⑩ 宇土高校在学中の SSH 関連事業のなかで卒業後、効果を実感した「取組」を記入してください。（各種企画や研修、課題研究など効果のあった内容を記載ください）
- ⑪ 卒業後、周囲と比較して秀でていると実感した「能力や資質」を記入してください。（〇力や〇性、〇をする力、〇ができる）
- ⑫ 卒業後、学びや就職の場を通して、改めて宇土高校 SSH 関連事業で早期に取り組んだ方が効果的だと実感した「取組や学問内容」を記入してください。



Super Science High School 熊本県立宇土中学校・宇土高等学校

第 I 期開発型【H25-H29】と第 II 期実践型【H30-R4】これまでの主な成果 **卒業生**

【一期生】インドネシア ICAST 発表・東大推薦 → D1 触媒学会最優秀賞
研究テーマ「チョコレートのような合金を目指して」

【二期生】国際統合睡眠医科学研究機構訪問 → M2 同研究室卓越大学院プログラム進学
アジアサイエンスキャンプ日本代表派遣 → 国際発表最優秀・eNeuro 論文掲載

【三期生】レンズ研究で全国総文化祭最優秀賞 → 医 5 台湾国際学会・各種学会発表
熊本大学医学部プレ柴三郎プログラム参加 日本神経精神薬理学会受賞

【四期生】ISEF 表彰日本物理学会最優秀賞 → ミネルバ大学進学・各種奨学金等授与

【七期生】JSEC、日本物理学会・情報処理学会等受賞 → University of California, San Diego 進学